

AIP:人工知能/ビッグデータ/IoT/サイバーセキュリティ統合プロジェクト
理化学研究所 革新知能統合研究センター 中間評価の実施について

令和2年1月30日
情報委員会

1. 趣旨

AIP プロジェクトが 2016 年度に開始され、理化学研究所 革新知能統合研究センター（以下「理研 AIP センター」という。）が 2017 年 1 月に開所してから、3 年を迎えるにあたり中間評価を行うもの。

2. 評価の実施方法

- (1) 情報委員会委員（利害関係者は除く。）により実施。
- (2) 理研 AIP センターの自己評価報告書の査読及びヒアリングに基づき、別紙基準に沿って評価。
 - 1) 評価の流れ（計約 180 分）
 - ① 理研 AIP センター長からセンターのビジョン及び全体の運営並びに進捗状況等について報告（約 10 分）
 - ② 各研究グループ長から研究内容の進捗状況について報告（約 60 分：各グループ説明 10 分、質疑 10 分）
 - ③ 理研 AIP センターとの質疑応答（約 20 分）
 - ④ 総合討議（約 90 分）
 - ・ヒアリング結果をもとに討議・評価を行い、委員ごとに評価シートに記入。なお、時間内に書ききれない場合は、後日評価シートを事務局に提出。
 - ・中間評価票案の審議
 - ⑤ 後日、各委員（欠席の委員も含む。）の評価結果に基づき中間評価票案を事務局にて取りまとめ、情報委員会で中間評価票等を決定。
 - 2) 評点について
評価項目ごとに、5 段階評価及びコメントによる評価とし、全委員の評価を集計。
 - 3) 欠席の扱い
欠席の場合、事前に送付された評価資料を基にコメント及び評点を評価シートに記入し事務局に提出。
- (3) 情報委員会が取りまとめた中間評価票案については、研究計画・評価分科会にて審議。

3. スケジュール

- 1 月 8 日（水）～17 日（金）
 - ・ 中間評価の実施について書面審議
- 3 月 13 日（金）13:00～16:00
 - ・ 情報委員会において理研 AIP センターのヒアリング及び中間評価の実施

AIP:人工知能/ビッグデータ/IoT/サイバーセキュリティ統合プロジェクト
理化学研究所 革新知能統合研究センター 中間評価の評価項目・評価基準

(1) 必要性

[評価項目]

- ・科学的・技術的意義（革新性、先導性、発展性等）
- ・国費を用いた研究開発としての意義（国や社会のニーズへの適合性等）

[評価基準]

- ・理研 AIP センターが目指すビジョンを明確に示し、次世代の新たな人工知能基盤技術を数件開発する等、事業における目標設定が革新的、先導的なものとなっているか
 - ◇ 研究内容は、世界水準から見て優位性・独創性があるか。
 - ◇ 事業における目標設定が、革新的、先導的、発展的なものであるか。
 - ◇ 事業目標や研究内容等は国際動向や社会情勢等の変化に合わせて見直しがなされているか。
- ・政府の方針に合致した研究計画となっているか
 - ◇ 「AI 戦略 2019」等の政府の方針に沿った、革新的な研究計画になっているか。

(2) 有効性

[評価項目]

- ・新しい知の創出への貢献、（見込まれる）直接・間接の成果・効果やその他の波及効果の内容

[評価基準]

- ・理研 AIP センターの研究成果に基づく人工知能技術を活用することによって、科学的発見を行い、革新的な研究成果の創出に資することができるか
 - ◇ 事業目標に対して柔軟な計画変更も含め、国際競争力のある十分な成果が得られる取組となっているか。
 - ◇ 日本の独自性を活かすことにより、世界の文化的多様性に対応できるような新たな応用を生み出す可能性があるか。
- ・理研 AIP センターにおける研究開発を通じて、研究者の人材育成に資することができたか
 - ◇ 研究者の人材育成に資することができるか。
 - ◇ オープンなプラットフォーム（データリポジトリやソフトウェア等によって構築）の活用及び広報活動等を通じて、理研 AIP センターの存在、研究活動及び研究成果が国内外の学术界や産業界で認知・活用されているか。

(3) 効率性

[評価項目]

- ・費用構造や費用対効果向上方策の妥当性

[評価基準]

- ・目的の達成に向けて、効率的な研究を推進するための適切な実施計画と体制が形成され実施されているか
 - ◇ 研究実施体制とマネジメントの妥当性（理研 AIP センター長のリーダーシップのもと、研究目標の達成に向けて効率的に研究を実施する体制、企画運営体制になっているか。社会や産業界のニーズを取り込む仕組みはあるか。理研の他部門との連携が効率的に行われているか。）
 - ◇ 各研究グループへの資金配分や配分方法等は妥当か。
 - ◇ 研究者間の連携が取れているか。研究グループ間の連携によって融合的な成果が得られているか。
 - ◇ 研究成果や各種データについて、オープンアンドクローズの考え方を含め、適切にマネジメントされているか。